



林 声



OKAYAMA

お か や ま

No.343 . 1999 . 1 . 1



賀
正

1999 元旦

うたたねの里(ピオトープの森): 上斎原村

目 次

新年のごあいさつ	2	“樹”	6
スギザイノタマバエにご用心!	3	林研だより	7
シリーズ森林公園	4	お知らせ	8 ~ 9
普及指導最前線	5	林産物市況	10

新年のごあいさつ



岡山県林業改良普及協会

会長 高 宮 明

新年おめでとうございます。平成十一年の輝かしい年を迎え、会員の皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げますとともに、本協会の運営につきまして格別のご支援、ご協力を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

また、本県におきましては、昨年十月に台風十号による未曽有の災害に見まわれ、林業関係におきましても多大な損害を被りました。現在も必死の復旧作業が行われておりますが、被害を受けられました方々には心からお見舞いを申し上げます。

さて、林業を取り巻く情勢は木材価格の低落、林業生産活動の停滞、労働力の減少など依然として厳しく、明るい兆しがなかなか見えて来ない状況にあります。

一方で、昨年は地球温暖化防止の観点から森林・木材の持つ二酸化炭素の吸収・固定機能が改めて認識された年でもあり、森林の新たな公益機能に注目が集まっております。また、台風

被害をきっかけとして、森林の治山・治水機能の重要性も再認識されております。こうしたなか、国においても間伐を中心とした適正な森林の維持管理や持続可能な森林造成を推進するための積極的な施策が講じられると聞いており、林業・木材産業界への追い風になるのではないかと期待しているところであります。

本県におきましても、間伐の推進はもとより、各分野で様々な施策が展開されております。木材産業の振興を図るため、

品質・規格の安定した質の高い製材品の生産や県産材の需要拡大を目指した取り組みが行われているほか、林業労働力の確保対策として「林業労働力確保支援センター」を核に新規就業から実際に活躍するまでの一連の支援事業が行われております。

このほかにも県民参加による「美しい森づくり運動」が各地で広まっており、本協会もこの運動の一層の推進を図るため、「おかやま もりの妖精」を募

集し植樹のつどいなどの行事に派遣するなど側面的な支援を行っているところであります。これらの施策効果が一日も早く現れ、林業・木材産業が再び活力を取り戻すことができるようできる限りの協力をさせていただきます。ただ所存であります。

森林は、木材生産のほか水資源のかん養、災害の防止など、私たちの生活になくてはならない存在であるとともに、地球温暖化防止の鍵を握る重要な資源であります。この森林を適正に維持管理し、二十一世紀に引き渡すことは私たちに与えられた大きな課題であり、どうしても成し遂げなければならぬ責務であると考えております。

会員の皆様方におかれましては、将来に夢を託し、それぞれ分野でますます御活躍されましますとともに、本年が皆様方をはじめ、林業・木材産業界にとりまして、飛躍の年になることを心から祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。

スギザイノタマバエにご用心!

スギザイノタマバエ（以下「ザイタマ」という。）については、スギを加害する重要害虫として、これまで九州地方だけに分布し被害を与えていました。

しかし、昨年九州地方以外では初めて、山口県内において生息し被害が発生していることが確認され、中国地方での今後の被害拡大が懸念されているところです。

これを受け、本県においてもザイタマの生息分布調査を十月に実施しましたので、その結果をお知らせします。

一 ザイタマの生態・被害形態

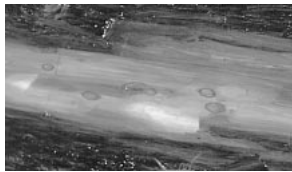
まず、ザイタマの生態について簡単に触れますと、成虫の発生は年二回で五、六月と八、十月に出現します。地際近くの粗皮に産卵し、ふ化した幼虫は内樹皮表面に移動し定着して成長します。幼虫はそこで体外消化により栄養摂取し、その部分に

は、「皮紋」と呼ばれる楕円形の模様ができます。ザイタマの生息を外観上から判断することは難しいので、この「皮紋」の有無により判断します。「被紋」の深さが内樹皮厚よりも深ければ形成層と木部までが死に、材に「材斑」と呼ばれるシミが生じます。このシミが材を劣化させる直接の被害となります。反対に内樹皮厚が「皮紋」よりも厚ければ、「材斑」は形成されません。

九州地方では一般に標高が高く湿度の高い林分で被害が多く発生する傾向にあります。



被害状況：材斑



被害状況：皮紋

スギザイノタマバエ生息分布調査位置図



二 生息分布調査の実施

(一) 調査方法・内容

阿新・真庭・津山・勝英振興局管内の湿度の高いと思われるスギ林分二三箇所、計二三八本について、地際近くの粗皮（幅五センチ×縦二〇センチ…一箇所）を剥ぎ、「皮紋」の有無及びザイタマの生息状況を

調査しました。

調査林分の標高は四〇〇〇～一〇〇〇㍉、林齢は二〇～四〇年生の範囲でした。

(二) 調査結果

二三八本すべてにおいて、ザイタマの生息及び被害は確認されませんでした。

三 今後の対応

他県においても同様の調査がされており、今月中にはその結果を各県持ち寄り対応を協議することになりますが、今後とも被害状況の把握に努める必要があります。

林業改良指導員もザイタマの被害形態等の普及、情報の収集などに努めますが、皆様方におかれましては、「皮紋」らしきものを発見された場合は直ちに最寄りの振興局森林課の林業改良指導員まで連絡していただくようお願いいたします。

(林業専門技術員 安東義朗)

シリーズ森林公園 11

「うたたねの里」

県最北端の苫田郡上斎原村の恩原高原に位置するこの公園は「心をリフレッシュさせてくれる場、本物の豊かさとは何かをこの里で」をコンセプトに整備されました。

園内にはミズナラを主体とした自然林が広がり、「みち草」と名づけられた森林遊歩道を散策するといろいろな樹木や草花、昆虫などが観察できます。自然観察棟を利用したバードウォッチングや、林内にある炭焼き窯で本格的な炭焼き体験もできます。

湿原公園には遊歩道、木橋が整備されており、オタカラコウ、ザゼンソウなど湿生植物を間近にみる事ができます。

また、園内には上斎原村の伝統的な民家を復元した、山村体験施設「うたかたの館」や郷土料理が味わえる「いっぷく亭」があり、農山村文化を肌で感じることが出来ます。

残念ながら冬期（一月～三月）には積雪のため閉園となるので利用はできません。

この公園は「豊かな森林づくり事業 国補助」で整備された「ビオトープの森ゾーン」にあります。この事業ではこの他に「滝谷」、「向い谷」、「本谷」、「恩原」の四ゾーンが整備されました。

周辺には恩原湖、自然展示館「ドングリの館」、野鳥の森、名水百選「岩井滝」、キャンプ場、スキー場など自然を満喫できる施設がたくさんあり、楽し



ビオトープの森ゾーン

く利用できます。

その他のゾーン紹介

『滝谷ゾーン』 この地区の七割は若いブナ林で占められています。数少なくなつた典型的な温帯林での森林浴を満喫できます。遊歩道を歩くとイワウチワなど希少な植物も観察できます。



滝谷ゾーン

『向い谷ゾーン』 ここは、カヤ刈り場跡の原野であつたところで、ビオトープの森ゾーンと作業路でつながっています。原野全体にブナが植えられ、積極的な森林の再生が図られています。

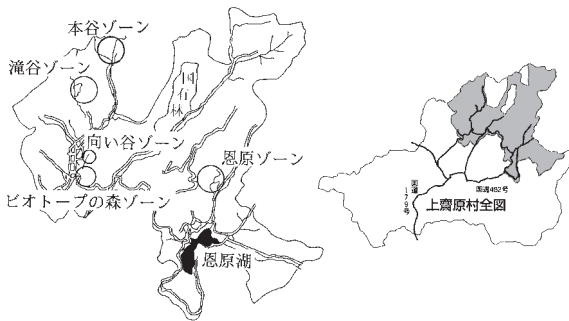
『本谷ゾーン』 スギ、ヒノキ林を択伐して、天然更新を

図り、針広混交林に仕立てることを目指しています。

また、ブナを主体とする広葉樹林については、有用樹を保護育成して、将来村民の収入源として役立たせることにしています。

『恩原ゾーン』 キハダ、ナナカマド、トチノキなどの特用樹を植栽しています。将来、食用、薬用、切り花などとして利用することが考えられています。

（苫津普及指導区 Ag 山本勝範）



普及指導最前線

高性能林業機械化に向けて

一 はじめに

木材価格の低迷、林業従事者の高齢化など林業を取り巻く環境が厳しく、森林所有者の森林管理に対する意欲が減退しつつある中、一方では、水源のかん養、保健休養、風致景観の保全といった公益的な要請が高まりつつあります。

このような状況の中で、加茂川町森林組合では林業労働の環境改善・生産性の向上を図るため、高性能林業機械を積極的に導入しています。

二 内 容

森林面積が一万四百三十畝（林野率七四％）を占める加茂川町では、林業後継者不足により、森林整備が遅れています。特に、間伐期を迎えた

年齢のスギ・ヒノキの人工林が千二百七十畝と全スギ・ヒノキ人工林面積の五七％を占めており、間伐対策が急務となっております。

さらに加茂川町森林組合は個人所有の山林約五〇〇畝と町有林約一四〇畝を管理しています

が、組合の嘱託作業員（十人）の平均年齢が六〇歳以上と高齢化しており今後、計画的な森林管理が難しくなっています。

そのため、加茂川町森林組合では、町の林業振興計画に基づき、高性能林業機械の導入を図っております。

平成七年度に林業就労環境改善整備事業によりフォワーダー一台を導入したのをかわきりに、平成十年度に同事業でタワーヤード（パワースショベル）にウィンチを搭載したスウィングヤーダ）一台、水士保全緊急間伐対策事業でプロセッサ一台導入し、林業労働の環境改善・生産性の向上に努めています。

また、森林作業員（フォレスト）の募集についても林業に関心のある若年者（概ね三十五歳以下）を対象に行っており、高性能林業機械の導入のみならず、人材確保にも力を入れていきます。



タワーヤード



プロセッサ

まず、人材確保にも力を入れていきます。

の方に話をお聞きしましたが、まだ機械の操作に慣れるのが大変で苦労していますと話していました。

今後は、機械の操作を円滑に行えるよう、県林業試験場等での研修に積極的に参加するなど、林業プロフェッショナルの育成・確保に力を注いでいきます。また、高性能林業機械を導入して日が浅く、事業量の確保等多くの課題が残っていますが、これを機会に加茂川町に適した機械化体系の構築等、間伐の推進に向け、バックアップしていきたいと考えております。

（岡山普及指導区Ag野崎晋也）

三 おわりに

間伐作業現場において作業員



間伐作業中

はじめに

ヤニタケ *Ischnoderma esinosum* (Fr.) Karst. は多孔菌科、ヤニタケ属のきのこで、発生初期のく若い時の柔らかいもののみ食用になります。味噌漬けや粕漬けなどにすると野趣に富んだ味わいがあり、加工食品の食材として、また、カワラタケやマンネンタケと同じ仲間であることから健康食品として期待できます。

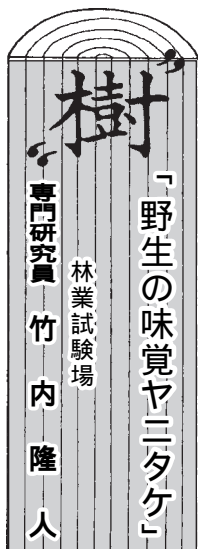
林業試験場では平成三年に一系統を採取し原木による栽培化試験（写真一）



写真 1



写真 2



とオガクズを使った瓶栽培試験（写真二）をおこなっております。ヤニタケの菌糸は一〇から三〇の幅広い範囲で生育しますが二五〜三〇が最も旺盛でした。きのこの発生は、自然発生では十月中下旬が適期のようにですが、発生適温について現在調査中です。

「原木での栽培」 ヤニタケに適する樹種はコナ

ラ、アベマキの他エノキ、ヤナギ、ポプラ等にも発生し、シイタケやヒラタケなどの食用キノコの栽培が可能な広葉樹であれば樹種の選択性はあまりないようです。マツやヒノキなどの針葉樹にも発生しますがこれからの発生量は極僅かです。栽培の方法は長さ一尋に玉切して栽培する短木栽培と、シイタケなどと同じような長さ一メートルの原木栽培の方法があります。どちらの方法も一長一短ですが長さ一尋に切りそろえた原木栽培の方が土やゴミなどの付着が少なく形の良いものが収穫できます。

原木栽培は気象条件によりますが植菌後二夏を経過した十月中旬から十一月中旬にかけて発生します。末口一〇センチ程度のアベマキの原木二十六本の平均で六・四枚三二・八枚の発生がありました。

問題点は、発生したきのこの三分の一が原木に密着（図一）するため採取に手間がかかること、取り遅れるときのこ

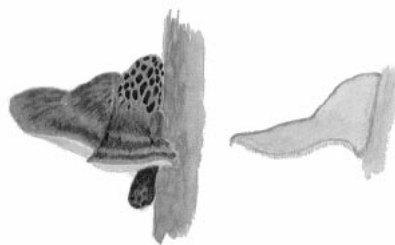


図 1

オガクズを使った瓶栽培については現在試験を継続しております。

が堅く なって 食用に ならな くなる ため、 採取の 適期を 見極め ること です。

林研だより

「全村公園化計画」に取り組む

東栗倉村林業経営研究会

県下の最高峰後山を背に南に広がる東栗倉村に「人を愛し、自然を愛し、ふるさとを愛する」村民の心を育てることを基本に、個性と文化に息づく「愛の村」構想がうちだされ、愛の村創生として、花いっぱい運動を通じた住環境の創出や、山林が息づく全村公園化が樹立されたのが昭和六二年の春です。この構想を背景に昭和六〇年に当林業経営研究会が設立され、その特徴は、会の名称に「経営」の文字を入れたことです。

コンクールの開催

まず、活動として取り組んだのが、村内主要道周辺の枝打や間伐による森林環境の整備です。会員所有林の手入れが波及効果を呼び、全村で森林の環境整備が進行しています。手入れされた林は、優良林分コンクール



出品木材価格と投資効果に談義が進む

ルの対象林として上位三点に森林組合総会で首長及び組合長から表彰される他、会員にはグループ総会で会長賞が授与される等、グループ会員を中心に村を挙げて森林の整備に取り組んでいます。現在コンクールの名称は「優良材生産技術コンクール」に改称されていますが、基本は山づくりに変わりはありません。山づくりに加えて経営部

門を取り入れた現コンクールは「林分の部」と「素材の部」の二本立てになっています。林分の評価は林業改良指導員が行い、素材評価は市場価格が反映されます。市場では、出品材価と投資効果について談義が進む中で、新たな森林管理への意欲が芽生えるなど、当コンクールは地域林業活性化へ大きく貢献しています。

美しい森づくりへの参加

「村の木」はヒノキ、「村の花」はシャクナゲですが、何故か「コブシ」が村を代表する「花」あるいは「木」と誤解されています。

村にはコブシの群生地があったり、道路沿いにはコブシ並木があることから、来村者の脳裏にコブシの純白な花が投影しているからだと思えます。

平成五年から始まったドングレポット苗木づくりは、当初考えていた以上のエネルギーを要していますが、当林研グループは、播種からその後の管理全般

について積極的に取り組んでいます。生育した苗木は「植樹のつどいや記念植樹」等をおして東栗倉美しい森へ植樹するなど、村が樹立した全村公園化に向けた活動が進行しています。



東栗倉美しい森で植樹に励む会員

東栗倉村林業経営研究会
会長 春名 明
会員数 一六人
目的 林業経営・技術の向上

(勝英普及指導区Ag平山俊策)

平成十年度功労者表彰受賞者の紹介

平成十年十一月七日、勝央町のおかやまファーマーズマーケットノースヒルズで開かれた「ふるさと・ふれあい交流フェスティバル」において、永年農林漁業の振興に尽力された個人と団体の表彰が行われました。

そのうちの林業関係受賞者の概要について紹介します。

一 農林漁業功労者表彰

〈知事表彰【林業】〉

三上幸夫（哲多町荻尾）

役職等

・元岡山県林業改良普及協会専門部会長

・おかやまマツタケ振興会会長
功績内容

・阿新地域のみならず県下の林研グループのリーダーとして後継者の育成指導に寄与した。

・松林を整備し、マツタケ増産のために地域住民のリーダーとして共同研究を行い、特用林産物の増産と林業の振興に努めている。

〈農林水産部長表彰【林業】〉

市 輝男（落合町野川）

役職等

・真庭地区山林種苗組合理事長
・岡山県山林種苗協同組合副理事長
功績内容

・昭和二十三年から優良苗木の生産に取り組み、苗畑の集団化、機械

導入による作業の省力化を推進し、地域の模範的経営を行っている。
・真庭地区、また県下の山林種苗生産者のリーダーとして生産者の指導、技術の普及に努めている。

志水 勇（津山市二宮）

役職等

・津山地区木材組合副理事長

・岡山県北製材工業協同組合理事長
功績内容

・津山地域の木材産業のリーダーとして「みまさか材」の地位確立とJAS規格の普及に努めている。
・耐震性木造軸組住宅のPRを積極的に行い、乾燥材の普及と県産材の需要拡大を図るなど木材産業の振興に貢献している。

井上 磨（西粟倉村大茅）

役職等

・西粟倉村森林組合代表理事組合長
功績内容

・森林組合の職員として、また組合長として高性能林業機械を導入し、林産事業の安定化と労働力の確保に積極的な取り組みでいる。
・特殊材加工施設や木工品の製造販売に取組み、組合の事業拡大と経営の安定化のため貢献している。

〈知事表彰【団体指導】〉

牧野 俊（久世町久世）

役職等

・真庭郡木材事業協同組合理事長
・岡山県木材協同組合連合会副会長

功績内容

・真庭地区、また県下の木材産業界のリーダーとして活躍し、製材技術の向上と業界の近代化に努めている。

・木材生産の低コストと木材の安定供給のため、旭川流域機械化センターの設立に尽力する等木材産業界全般の振興に貢献している。

〈農林水産部長表彰【団体指導】〉

柳井光男（上斎原村）

役職等

・上斎原村森林組合代表理事組合長
・㈱かみさい森林興産代表取締役
功績内容

・雇管理の改善、機械化による経営の合理化、特用林産物の生産加工販売による多角化により森林組合の経営安定化に貢献している。

二 農林漁業近代化表彰

加茂森林組合（加茂町・阿波村）

功績内容

・昭和五十一年一つの森林組合合併による経営の合理化を始め、林産物の搬出経費の低減を目指して、林道、作業道の整備、高性能林業機械の導入による集材から搬出までの一貫作業を図るなど経営の近代化と地域林業の振興に貢献している。

（林業専門技術員 渡邊直人）

お知らせ

林業作業士育成研修 今年度、九名の林業作業士が誕生

平成十年度林業作業士育成研修が、六月から十月までの五期四十三日間にわたって実施され、新たに九名の林業作業士が認定されました。

この研修は、昭和六十一年度から優秀な技師を有する林業従事者の育成を目的に実施しており、今年で一三年目を迎えますが、延べ一三六名の林業作業士が誕生しました。

また、これまでは県が実施し

ていましたが今年度からは岡山県林業労働力確保支援センターで行っております。

研修内容は、林業労働に必要な専門的知識や技能、高性能林業機械の操作技術等をはじめ、各種資格を修得するための講義や現地実習が行われました。

これらの技術を習得した林業作業士は、今後、県内各地の森林施業の推進に一層の活躍が期待されています。

平成十年度林業作業士育成研修 修了者

- 西尾 剛（西栗倉村森林組合）
- 田中伸章（上斎原村森林組合）
- 黒田光記（加茂森林組合）
- 森安直樹（榑奥津町振興公社）
- 松田郁男（加茂川町森林組合）
- 加藤雅一（富村森林組合）
- 石井文雄（富村森林組合）
- 上原 剛（奈義町森林組合）
- 山口利之（大佐町森林組合）



研修生による記念植樹

林産物市場況

製材 (12月中旬)

杉正角 3m			桧正角 3m			桧長柱 6m		
寸法	等級	安値 - 高値 (千円)	寸法	等級	安値 - 高値 (千円)	寸法	等級	安値 - 高値 (千円)
6.0	一等	30 - 35	6.0	一等	40 - 45	10.5	特等	80 - 85
7.5	一等	20 - 22	7.5	一等	30 - 33	12.0	特等	105 - 110
9.0	上一	16 - 18	9.0	上一	18 - 20	"	上小	120 - 130
"	一等	20 - 22	"	一等	25 - 28	13.5	特等	85 - 90
10.5	一等	30 - 35	10.5	一等	55 - 60	"	上小	100 - 120
"	特等	38 - 40	"	特等	65 - 70	ラ ス 板		
"	上小	55 - 60	"	上小	110 - 150	2 ^m 1.2× 9.0		23 - 25
"	無節	70 - 90	"	無節	180 - 200	3 ^m 1.2× 9.0		25 - 27
12.0	特等	35 - 40	12.0	特等	70 - 73	2 ^m 1.5× 10.5		25 - 30
"	上小	45 - 50	"	上小	110 - 150	2 ^m 0.9× 24.0		60 - 65
"	無節	60 - 70	"	無節	180 - 200	2 ^m 1.5× 21.0		33 - 40
長 サ 4m			長 サ 4m			造 作 材		
6.0	一等	40 - 42	6.0	一等	50 - 55	杉 4m 3.0× 3.0	無節	(本) 6 - 8
9.0	上一	22 - 25	9.0	上一	30 - 35	杉 4m 4.0× 4.5	無節	(本) 12 - 20
"	一等	30 - 32	"	一等	45 - 50	杉 4m 4.5× 10.5	無節	180 - 200
10.5	特等	40 - 43	10.5	特等	70 - 75	桧 4m 4.5× 10.5	上小	150 - 200
12.0	特等	40 - 42	12.0	特等	70 - 75	桧 4m 4.5× 10.5	無節	250 - 300

木材 (12月中旬)

長さ	径 (cm)	杉 (千円)	桧 (千円)	松 (千円)
3m	7 - 10	8	14	-
	11 - 13	14	27	13
	14 - 16	24	32	13
	18上	17	32	15
4m	7 - 10	-	24	-
	11 - 13	17	24	-
	14 - 16	18	37	17
	18上	19	35	20
6m	14 - 16	23	54	-
	18 - 20	18	45	-

乾しいたけ (11月中旬)

名柄別	価格 kg当り (百円)	
	平均	高 値
香 信 大 葉	54	84
" 中 葉	48	69
" 小 葉	37	57
パレ 大 葉	33	52
" 中 葉	28	43
ス ラ イ ス	30	39
香 茹	55	76
上 冬 茹	59	63
並 "	48	66
並 並 "	33	47
小 玉 "	17	17
格 外 品	18	37

編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年も昨年引き続きまして、「林声」の御愛読並びに本協会への御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

今年の冬は、天気予報によりますと徐々に「冬らしい冬」になるようですが、風邪などお体には十分お気をつけください。

本年が皆様方にとって、充実した素晴らしい年になりますようお願い申し上げます。(A)